

(案)

第 6 次 地 域 管 理 経 営 計 画 書
第 6 次 国 有 林 野 施 業 実 施 計 画 書

(球磨川森林計画区)

計画期間

自	令和 5 年 4 月 1 日
至	令和 1 0 年 3 月 3 1 日

九 州 森 林 管 理 局

(案)

第 6 次 地 域 管 理 経 営 計 画 書

(球磨川森林計画区)

計画期間

自 令和 5 年 4 月 1 日

至 令和 10 年 3 月 31 日

九 州 森 林 管 理 局

はじめに

我が国の国土面積の2割、森林面積の3割に当たる国有林野の管理経営は、森林経営の用に供するものとされた国有財産として、①国土の保全その他国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るとともに、あわせて、②林産物を持続的かつ計画的に供給し、③国有林野の活用によりその所在する地域の産業の振興又は住民の福祉の向上に寄与することを目標として行うこととされている。

このような中で、森林に対する国民の要請は、国土の保全や水源の涵養^{かん}に加え、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり^{もり}等^りの面での期待が高まるなど、公益的機能の発揮に重点を置きつつさらに多様化してきた。特に、国有林野に対しては、地球温暖化防止、生物多様性の保全の面での期待が大きくなってきた。加えて、国有林野と民有林野を通じた公益的機能の発揮が強く期待されているものの、地域によっては、国有林野に隣接する民有林野において十分な整備や保全が行われていない状況もみられる。また、戦後造成した人工林が本格的な利用期を迎える中、我が国の林政は、森林・林業の再生に向け、大転換を進めており、国有林野事業については、民有林への指導やサポートなど我が国の森林・林業の再生に貢献することが求められている。

こうしたことを踏まえ、国有林野事業については、公益的機能の発揮のための事業や民有林への指導やサポート、木材の安定供給等の事業を、民有林に係る施策との一体的な推進を図りつつ、一層計画的に実施していくため、平成25年度から、それまでの特別会計により企業的に運営する事業から一般会計において実施する事業に移行した。

加えて、我が国では、多くの森林が利用可能な段階を迎える中で、民有林においては、森林の経営管理の集約化が喫緊の課題となっており、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立を図るため、市町村が森林所有者から森林の経営管理の委託を受け、意欲と能力のある林業経営者に再委託を行い、林業経営の集積・集約化を推進するとともに、再委託できない森林及び再委託に至るまでの森林においては、市町村が公的管理を行う森林経営管理制度が平成31年4月から導入された。あわせて、市町村が実施する森林整備等に必要な財源に充てるため、平成31年3月に「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が成立し、同年4月から一部が施行された。

これらを踏まえ、国有林野事業は、冒頭の目標の下、森林・林業や国有林野事業に対する国民の多様な要請と期待を踏まえつつ、一般会計において国民共通の財産である国有林野を名実ともに「国民の森林」とするよう、公益重視の管理経営を一層推進するとともに、その組織・技術力・資源を活用して林業の成長産業化の実現に向け貢献するための取組を進める。

本計画は、国有林野の管理経営に関する法律（昭和26年法律第246号）第6条第1項の規定に基づいて、九州森林管理局長が、国有林野の管理経営に関する基本計画に即し、国有林の地域別の森林計画と調和させ、あらかじめ国民の意見を聴いた上で、今後5年間の球磨川森林計画区における国有林野の管理経営に関する基本的な事項について定めたものである。

球磨川森林計画区における国有林野の管理経営は、関係住民の理解と協力を得ながら、さらに、関係行政機関と連携を図りつつ、この計画に基づいて適切に行う。

目 次

1	国有林野の管理経営に関する基本的な事項	1
(1)	国有林野の管理経営の基本方針	1
①	森林計画区の概況	1
②	国有林野の管理経営の現状及び評価	1
③	持続可能な森林経営の実施方向	2
④	政策課題への対応	3
(2)	機能類型に応じた管理経営に関する事項	4
①	機能類型ごとの管理経営の方向	4
②	地区ごとの管理経営の方向	5
(3)	森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた 貢献に必要な事項	8
①	林業の成長産業化等に向けた技術開発・実証と普及	8
②	林業事業体の育成	9
③	民有林と連携した施業や民有林材との協調出荷の推進	9
④	森林・林業技術者等の育成と森林総合監理士（フォレスター） 等による技術支援	9
⑤	その他	9
(4)	主要事業の実施に関する事項	9
①	伐採総量	10
②	更新総量	10
③	保育総量	10
④	林道の開設及び改良の総量	10
(5)	その他必要な事項	10
2	国有林野の維持及び保存に関する事項	11
(1)	巡視に関する事項	11
(2)	森林病虫害の駆除又はそのまん延の防止に関する事項	11
(3)	特に保護を図るべき森林に関する事項	11
(4)	その他必要な事項	11
3	林産物の供給に関する事項	11
(1)	木材の安定的な取引関係の確立に関する事項	11
(2)	その他必要な事項	12
4	国有林野の活用に関する事項	12
(1)	国有林野の活用の推進方針	12
(2)	国有林野の活用の具体的手法	12
(3)	その他必要な事項	13

5	公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野と一体として整備及び 保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項	1 3
	(1) 公益的機能維持増進協定の締結に関する基本的な事項	1 3
	(2) 国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる 民有林野の整備及び保全に関する事項	1 3
6	国民の参加による森林の整備に関する事項	1 3
	(1) 国民参加の森林に関する事項	1 3
	(2) 分収林に関する事項	1 3
	(3) その他必要な事項	1 3
7	その他国有林野の管理経営に関し必要な事項	1 4
	(1) 林業技術の開発、指導及び普及に関する事項	1 4
	(2) 地域の振興に関する事項	1 4
	(3) その他必要な事項	1 4

1 国有林野の管理経営に関する基本的な事項

(1) 国有林野の管理経営の基本方針

国有林野の管理経営は、国有林野の管理経営に関する基本計画に即するとともに、国有林の地域別の森林計画と調和して、機能類型区分等による公益重視の管理経営を一層推進するとともに、その組織・技術力・資源を活用して林業の成長産業化の実現に向け貢献することを基本方針とする。

① 森林計画区の概況

本計画の対象は、球磨川森林計画区を管轄区域とする国有林野 37,063ha(不要存置林野 1ha を含む。)であり、熊本県の南部に位置し、八代市、人吉市、水俣市、八代郡、葦北郡及び球磨郡の 3 市 7 町 5 村に所在しており、球磨川の源流部から河口部までの区域である。

また、本計画区は、水源かん養保安林が全体の 89%に達し、下流域の水瓶として重要な役割を担っているほか、渓谷豊かな森林景観、照葉樹の森など豊富な観光資源に恵まれていることから登山などの森林レクリエーション・保健休養の場として多くの人に利用されている。

さらに、従来よりスギ・ヒノキの人工造林が盛んで、豊かな森林資源を利用した木材加工業等が高度に発達し、地域の重要な産業となっている。なお、本計画区の森林は、熊本県とともに平成 19 年 3 月に「緑の循環」認証会議 (S G E C) より、認証森林として認証されている。

② 国有林野の管理経営の現状及び評価

本計画区の国有林は、熊本南部森林管理署が管理経営しており、本計画の対象とする国有林野面積は 37,061ha で、計画区全体の森林面積 207,784ha に対して 18%を占めている。

主な樹種としては針葉樹はスギ、ヒノキ、広葉樹はシイ類、カシ類などとなっている。

また、林相別に見ると針葉樹林 19,938ha、針広混交林 5,189ha、広葉樹林 11,086ha となっている

蓄積は 10,535 千 m^3 で、計画区全体の蓄積 59,387 千 m^3 に対して 18%を占めている。

人工林面積は 21,737ha で人工林率は 61%となっている。森林の種類は、普通林が 3,159ha で 9%、制限林が 33,902ha で 91%となっている。

なお、制限林の 99%が保安林であり、そのうち水源かん養保安林が 98%となっている。

○ 球磨川森林計画区内の森林資源状況 (単位：ha、 m^3)

区 分	人工林	天然林	その他	合計
面 積	21,737	14,074	1,250	37,061
蓄 積	7,643,891	2,890,202	839	10,534,932

主要施策に係る前計画の計画量と実行量について下表に示す。

伐採立木材積に関しては、令和 2 年 7 月豪雨災害による林道等の被害によりアクセスが困難となった伐採計画箇所の実行ができなかったため、主伐、間伐ともに計画量を下回る結果となった。また、造林面積については、主伐実行量の減少によりこれに連動して計画

量を下回った。

林道等の開設又は改良に関しては、豪雨等による被災箇所など計画以外の災害復旧事業を優先して実行する必要が生じたことや、入札の不調等により計画を下回った。

○ 主要施策に係る計画量と実行量

項目	計 画	実 行
伐採立木材積	1,150,300 m ³	725,481 m ³
主 伐	409,206 m ³	294,316 m ³
間 伐	741,094 m ³	431,165 m ³
造林面積	665 ha	396 ha
人工造林	639 ha	366 ha
天然更新	26 ha	30 ha
林道等の開設又は改良	開設：36.5 km 改良：102 箇所	開設：3.9 km 改良：6 箇所

注：計画の臨時伐採量は主伐に含めた。

③ 持続可能な森林経営の実施方向

国有林野の管理経営に当たっては、開かれた「国民の森林」の実現を図り、現世代から将来世代へ森林からの恩恵を伝えるため、住民の方々の意見を聴き、機能類型区分や森林の適切な整備・保全等による持続可能な森林経営に取り組んでいく。

また、持続可能な森林経営については、日本はモンリオール・プロセスに参加しており、この中で森林経営の持続可能性を客観的に把握し評価するための7基準（54指標）が示されている。本計画区の国有林野について、この基準を参考に取り組んでいる施策及び森林の取扱方針を整理すると次のとおりとなる。

I 生物多様性の保全	地域の特性に応じた多様な森林生態系を保全していくため、針広混交林等からなる多様な林相の森林を整備及び保全していくとともに、貴重な野生動植物が生息・生育する森林について適切に保護・保全するほか、施業を行う場合でも適切な配慮を行う。関連する主な施策として、厳格な保全・管理を行う保護林のモニタリング調査等を通じた適切な保全・管理等を推進するとともに、原生的な天然林や里山林、溪畔林、保護樹帯等を各々の林相に応じ適切な整備・保全を行い、森林生態系のネットワークの構築を図る。
II 森林生態系の生産力の維持	森林としての成長力を維持し健全な森林を整備していくため、間伐等の適切な実施と伐採後の更新確保による健全な森林の整備とともに、公益的機能の発揮と両立した木材の生産を行う。関連する主な施策として、計画、設計、施工の各段階において森林生態系との調和を図りつつ、林道（林業専用道を含む。以下同じ。）及び森林作業道の適切な組合せによる路網の計画的な整備を推進する。

III 森林生態系の健全性と活力の維持	外部環境から受ける影響から森林の劣化を防ぐため、森林病虫害や山火事等から森林を保全するとともに、被害を受けた森林の回復を行う。関連する主な施策として、松くい虫被害まん延防止のため、薬剤による防除、伐倒駆除等に取り組むとともに、シカによる森林被害の状況を踏まえ、被害防除及びシカの捕獲を推進する。
IV 土壌及び水資源の保全と維持	降雨に伴う侵食等から森林を守るとともに、森林が育む水源の涵養のため、山地災害により被害を受けた森林の整備、復旧や公益的機能の維持のために必要な森林の保全を行うとともに、森林施業においても裸地化する期間の短縮や尾根筋や沢沿いでの森林の存置を行う。関連する主な施策として、安全・安心に暮らせる環境づくりを目指して、民有林と国有林が連携した効果的な治山対策に取り組む。
V 地球的炭素循環への森林の寄与の維持	地球温暖化防止に貢献するため、温室効果ガスの吸収源と位置づけることのできる森林を確保するため育成林の整備を推進するとともに、天然生林の保全を行うほか、森林整備の円滑な推進と炭素の貯蔵庫としての機能を維持するため木材利用を推進する。 関連する主な施策として、除間伐を主体に森林整備を推進するとともに、治山事業における間伐材等の利用促進や間伐材を使用した紙製品の普及に取り組む。
VI 社会の要望を満たす長期的・多面的な社会・経済的便益の維持及び増進	国民の森林に対する期待に応えるため、森林が有する多面的機能の効果的な発揮に取り組むとともに、森林浴や森林ボランティア、環境教育等森林と人とのふれあいの確保のためのフィールドの提供や森林施業に関する技術開発等に取り組む。関連する主な施策として、「レクリエーションの森」のPRや施設整備等に努めるなど、「国民の森林」として充実を図るとともに、学校のカリキュラムへの森林環境教育の導入、「遊々の森」の設定の推進、教職員を対象とした森林教室の実施等、学校との連携の強化に取り組む。
VII 森林の保全と持続可能な経営のための法的、制度的及び経済的枠組	I～VIで記述した内容を着実に実行し「国民の森林」として開かれた管理経営を行うため、国有林野に関連する法制度に基づく各計画制度の適切な運用はもとより、管理経営の実施に当たっては国民の意見を聴きながら進めるとともに、モニタリング等を通じて森林資源の状況を把握する。関連する主な施策として、国有林モニターを活用し、国有林野事業等に対する意見、要望等を聴取するとともに、国有林野事業の運営等について国民の理解の促進を図る。

④ 政策課題への対応

本計画区の国有林では、国土保全や水源涵養等の公益的機能の維持増進、林業の成長産業化の実現に向けた取組、森林環境教育や森林とのふれあい、国民参加の森林づくりの推進、地球温暖化防止や生物多様性の保全などの政策課題に対応している。

林業の成長産業化の実現に向けた取組としては、低コストで効率的な施業技術の普及、計画的な事業の発注や技術支援による林業事業者の育成、市町村に対する技術的支援及び民有林・国有林一体となった五木地域森林整備推進協定による施業の効率化等に取り組む。

さらに、意欲と能力のある林業経営体の育成を図るため、樹木採取権制度の適切な運用

に取り組む。

(2) 機能類型に応じた管理経営に関する事項

① 機能類型ごとの管理経営の方向

公益的機能の維持増進を旨とした管理経営を行うため、

- ・山地災害防止タイプ（土砂流出・崩壊防備エリア、気象害防備エリア）
- ・自然維持タイプ
- ・森林空間利用タイプ
- ・快適環境形成タイプ
- ・水源涵養タイプ

の機能類型区分を行い、重視すべき機能の発揮を目的とした管理経営を行う。

なお、地域別の森林計画における公益的機能別施業森林との関係は下表のとおり。

○ 機能類型と公益的機能別施業森林の関係

機能類型		公益的機能別施業森林			
		水源涵養 機能維持 増進森林	山地災害 防止機能/ 土壌保全 機能維持 増進森林	快適環境 形成機能 維持増進 森林	保健機能 維持増進 森林
山地災害防止 タイプ	土砂流出・崩壊防備エリア	○	○		
	気象害防備エリア	○	○	○	
快適環境形成タイプ		○		○	
水源涵養タイプ		○			
自然維持タイプ		○	○		○
森林空間利用タイプ		○	○		○

また、機能類型区分に応じた管理経営にあたっては「管理経営の指針」（別冊）によるほか、次の点に留意して、個々の森林の自然条件や社会的条件を踏まえて適切に行う。

なお、各機能の発揮を図るために導入する林相の維持・改良等に必要な施業により生じる木材については、有効利用を図る。また、齢級構成の平準化やニーズに応じた主伐を計画的に行うことにより木材の供給を図る。

ア 山地災害防止タイプにおける管理経営の指針その他山地災害防止タイプに関する事項

山地災害防止タイプは、土砂の流出・崩壊、落石等の山地災害による人命・施設の被害の防備その他災害に強い国土基盤の形成に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、次の事項に留意して、保全対象と当該森林の位置的関係、地質や地形等の地況、森林現況等を踏まえた適切な管理経営を行う。

山地災害防止タイプのうち、土砂流出・崩壊防備エリアでは、根系が深くかつ広く発達し、常に落葉層を保持し、適度の陽光が入ることによって下層植生の発達が良好であり、

必要に応じて土砂の流出・崩壊を防止する治山施設等が整備されている森林を整備の目標とする。

山地災害防止タイプのうち、気象害防備エリアでは、樹高が高く下枝が密に着生しているなど遮蔽能力が高く、諸被害に対する抵抗性の高い樹種によって構成される森林を目標とする。

イ 自然維持タイプにおける管理経営の指針その他自然維持タイプに関する事項

自然維持タイプは、原生的な森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存等自然環境の保全に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、原則として自然の推移に委ねるとともに、生物多様性の保全等に配慮した管理経営を行う。

ウ 森林空間利用タイプにおける管理経営の指針その他森林空間利用タイプに関する事項

森林空間利用タイプは、スポーツ又はレクリエーション、教育文化、休養等の場及び優れた景観の提供に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、それぞれの保健・文化的利用の形態に応じた管理経営を行う。

エ 快適環境形成タイプにおける管理経営の指針その他快適環境形成タイプに関する事項

快適環境形成タイプは、騒音の低減や大気の浄化、木陰の提供等による気象緩和等地域住民の居住環境を良好な状態に保全する機能を重点的に発揮すべき森林であり、それぞれの機能に応じた管理経営を行う。

オ 水源涵養タイプにおける管理経営の指針その他水源涵養タイプに関する事項

水源涵養タイプは、国民生活に欠かせない良質で豊かな水の供給に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、渇水緩和や水質保全等の水源涵養機能を高めるため、浸透・保水能力の高い森林土壌の維持及び根系や下層植生の発達が良好で諸被害に強い森林の整備を目標として管理経営を行う。なお、これら条件の維持できる範囲で森林資源の有効利用に配慮する。

② 地区ごとの管理経営の方向

ア 氷川地区（1001～1025林班）

八代市北部及び中央部に位置し、八代市と球磨郡の境をなす国見岳(1,030m)と六本杉山(1,148m)を含む稜線沿いの北側斜面を中心とする標高 500m～1,150mの地区及び氷川流域を形成する大行寺山(957m)、白山(1,072m)、矢山岳(869m)等の山頂付近の地区である。

大部分がスギ、ヒノキを主体とする人工林であり、全域が水源かん養保安林に指定されており水源涵養機能を重視すべき森林であることから「水源涵養タイプ」に区分して管理経営を行う。

一部急峻な森林については、山地災害防止機能を重視すべき森林であることから「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行う。

釈迦院に至る道路沿線は、釈迦院スギの希少個体群保護林に設定している。また、矢山岳周辺は自然環境の保全・形成を図ることを重視すべき森林であることから「自然維持タイプ」

に区分して管理経営を行う。

イ 坂本地区（1026～1047林班）

八代市南東部の稜線沿いの標高530m～1,050mの細く連なる地区であり、球磨川中流を取り囲むように位置している。

全域が水源かん養保安林に指定されており、水源涵養機能を重視すべき森林であることから「水源涵養タイプ」に区分して管理経営を行う。一部急峻な森林については、山地災害防止機能を重視すべき森林であることから「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行う。

ウ 八代地区（1048～1054、1056～1058、1060～1064林班）

八代平野の東部及び南部に位置し、八代市西部、八代郡氷川町及び葦北郡芦北町に点在する里山地区で、標高は30m～570mであり、スギ、ヒノキの人工林が多く、天然林はシイ類、カシ類等の常緑広葉樹が主体である。

八代市街地の展望が良く、史跡が存する区域、住宅や農耕地に隣接する区域があり、水源かん養保安林又は土砂流出防備保安林に指定されており、水源涵養機能や山地災害防止機能を重視すべき森林であることから「水源涵養タイプ」又は「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行う。

1054林班の一部が、八代城跡群史跡名勝天然記念物に指定されており、自然環境の保全・形成を図ることを重視すべき森林であることから「自然維持タイプ」に区分して管理経営を行う。また、市街地に近く人口集中地区から遠望が可能である箇所については、居住環境を良好な状態に保全することを重視すべき森林であることから「快適環境形成タイプ」に区分して管理経営を行う。

エ 五家荘地区（1101～1146林班）

球磨川支流川辺川の最上流部で、八代市東部に位置し、国見岳(1,739m)を中心とする九州中央山地の西側斜面を占める地区である。標高は最低でも700mあり、大部分は1,200m以上である。

モミ、ツガ等の針葉樹やブナ、ミズメ、シオジ等の落葉広葉樹が混生している天然林が多く、九州中央山地森林生物群集保護林が設定されており、九州中央山地国定公園の要所として自然景観の維持、自然環境の保全・形成を図ることを重視すべき森林であることから「自然維持タイプ」に区分して管理経営を行う。

また、その周辺部は全域が水源かん養保安林に指定されており、水源涵養機能や山地災害防止機能を重視すべき森林であることから「水源涵養タイプ」又は「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行う。

オ 水俣地区（1402～1411、1413、1414、1416～1431、1433～1463、1466～1471林班）

水俣市、葦北郡芦北町、津奈木町及び球磨郡球磨村に位置し、大関山(901m)を主峰とする地区であり、火山性土壌の緩傾斜地が多く、スギ、ヒノキの人工林率が78%と高く、林道密度も高い。

大部分が重要な水源地になっており、また、一部は急傾斜地であり、水源かん養保安林

又は土砂流出防備保安林に指定されており、水源涵養機能や山地災害防止機能を重視すべき森林であることから「水源涵養タイプ」又は「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行う。

八代海に面した水俣市袋西ノ浦区域は、クス、シイ類を主体とする常緑広葉樹林で、芦北海岸県立自然公園第2種特別地域に指定されている森林があり、保健・文化的利用に係る機能を重視すべき森林又は自然環境の保全・形成を図ることを重視すべき森林であることから「森林空間利用タイプ」又は「自然維持タイプ」に区分して管理経営を行う。

1420林班の一部には、久木野アカガシ等遺伝資源希少個体群保護林を設定しており、自然環境の保全・形成を図ることを重視すべき森林であることから「自然維持タイプ」に区分して管理経営を行う。

カ 人吉南部地区（1～24、30、32、34～40、42～45、48～57、59、60、63、65～82、100、3029、3030、3044～3048林班）

人吉市、球磨郡錦町、あさぎり町及び球磨村に位置し、宮ノ尾山(877m)から矢岳山(739m)、大平山(1,120m)、宮崎県並びに鹿児島県境に至る山岳地帯の北側斜面を占める地区であり、スギ、ヒノキの人工林が多い。

球磨川支流及び川内川支流の最上流部で水源林としての期待が高い区域や急傾斜地等は水源かん養保安林又は土砂流出防備保安林に指定されており、水源涵養機能や山地災害防止機能を重視すべき森林であることから「水源涵養タイプ」又は「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行う。

国道221号沿線の一部区域は、自然探勝等森林レクリエーションや森林教室等の場になっており、休養等の場及び優れた景観の提供に係る機能を重視すべき森林であることから「森林空間利用タイプ」に区分して管理経営を行う。

30林班の一部には、大河平モミ等遺伝資源希少個体群保護林を設定しており、自然環境の保全・形成を図ることを重視すべき森林であることから「自然維持タイプ」に区分して管理経営を行う。

キ 人吉北部地区（83～94、97、98林班）

球磨郡山江村及び球磨村に位置し、白岩山(1,001m)、仰烏帽子山(1,301m)、三ツ尾(650m)の山岳を中心に点在する地区である。

下流域の水源として水源かん養保安林に指定されている区域や下流部に市街地が存在する区域は、水源涵養機能や山地災害防止機能を重視すべき森林であることから「水源涵養タイプ」又は「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行う。

ク 多良木地区（2001～2026、2085、3049、3050、3014、3015林班）

球磨郡多良木町、湯前町、水上村及びあさぎり町に位置し、陀来水岳(1,204m)、牧良山(990m)、白髪岳(1,416m)、花立山(1,105m)が東西にあり、主に北斜面の地区である。

白髪岳周辺の山頂一帯は、自然環境保全地域特別地区、鳥獣保護区特別保護地区に指定され、また、白髪岳生物群集保護林に設定しており、モミ、ツガ、ブナ等の天然林が主体で優れた自然景観を有している区域は、自然環境の保全・形成を図ることを重視すべき森林であることから「自然維持タイプ」に区分して管理経営を行う。

牧良山及び花立山周辺は、下流部に住宅、農耕地等が存在し、土砂流出防備保安林と水源かん養保安林に指定されており、山地災害防止機能や水源涵養機能を重視すべき森林であることから「山地災害防止タイプ」又は「水源涵養タイプ」に区分して管理経営を行う。

ケ 水上地区(2028～2039林班)

球磨郡水上村に位置し、市房山(1,720m)、銚子笠(1,488m)、山犬切(1,561m)が連なり九州中央山地国定公園を含む地区であり、モミ、ツガ、ブナ、ミズメ等の温帯林が主体である。

市房山には登山者が多く保健文化的利用が期待されており、九州中央山地生物群集保護林や市房ゴイシツバメシジミ希少個体群保護林を含め、5箇所^{かん}の保護林を設定している。

さらに、山犬切は球磨川の源流で自然環境の保全・形成を図ることを重視すべき森林であることから「自然維持タイプ」に区分して管理経営を行う。

急傾斜地等については、土砂流出防備保安林と水源かん養保安林に指定され、山地災害防止機能や水源涵養機能を重視すべき森林であることから「山地災害防止タイプ」又は「水源涵養タイプ」に区分して管理経営を行う。

コ 五木地区(2040～2043、2046～2048、2054～2076、2078～2084林班)

球磨郡多良木町、相良村及び五木村に位置し、球磨川と支流川辺川の上流部にあり、標高は800m～1,100mの分散した地区である。

スギ、ヒノキ人工林が主体で、水源かん養保安林と土砂流出防備保安林に指定されており急傾斜地も多く、水源涵養機能や山地災害防止機能を重視すべき森林であることから「水源涵養タイプ」又は「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行う。

五木地域森林整備推進協定に基づく森林共同施業団地において、民有林や国有林を管理・経営する協定者等の連携により五木地域における「林業の成長産業化」の実現に向け、施業の集約化や路網整備、高性能林業機械の導入と中間土場の整備等による生産性や丸太価格の向上等を目指す取組を推進する。

(3) 森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた貢献に必要な事項

民有林関係者と連携して推進する森林の流域管理システムの下、森林の有する多面的機能の持続的発揮を基本としつつ、我が国の森林・林業の再生に貢献していくため、県・市町村等との密接な連携を図るとともに、組織・技術力・資源を活用し、民有林経営の支援等に積極的に取り組む。

特に、民有林においては、森林経営管理制度が導入されたことから、国有林においてはこの制度が円滑に機能するよう積極的に取り組む。

また、これらを通じて、木材の生産から利用までの全ての段階において生産性向上やコストの低減、歩留まりの向上等による林業及び木材産業の成長産業化の実現に貢献し、地域経済の発展や山村地域の振興に寄与するよう努める。

① 林業の成長産業化等に向けた技術開発・実証と普及

産学官連携の下、林業の低コスト化に向けた技術開発の推進に努め、特に、特定母樹等の成長に優れた苗木の活用等による低コスト造林技術の開発・実証と定着を図る。

国有林野事業において開発、改良された林業技術については、現地検討会の開催、モデル林、各種試験地等の設置等を通じて、地域林業関係者等への普及・定着を図る。

② 林業事業体の育成

民有林行政と連携しつつ、林業事業体への計画的な事業の発注、安定的・計画的な木材の供給及び林業事業体の育成に努める。あわせて、森林経営管理制度の定着に向けては、民有林において事業を実施する意欲と能力のある林業経営者の育成が重要であることから、国有林野事業に係る事業を委託する場合にはこうした林業経営者の受注機会の拡大に配慮する。

また、国有林の区域において、公益的機能を確保しつつ、一定期間・安定的に樹木を採取できる権利を設定する「樹木採取権制度」を通じて、意欲と能力のある林業経営体の育成を図る。さらに、流域で生産された木材の利用促進、木材の安定供給システム販売の推進及びニーズに応じた安定供給ができるよう木材需給情報の交換に努める。

③ 民有林と連携した施業や民有林材との協調出荷の推進

森林共同施業団地の設定等により、民有林・国有林一体となった効率的な路網の整備、計画的な間伐の実施、民有林材との協調出荷等に努める。

④ 森林・林業技術者等の育成と森林総合監理士（フォレスター）等による技術支援

現地研修会の実施や研修フィールドの提供、森林総合監理士（フォレスター）の育成等を通じて、民有林の人材育成支援に努める。また、県と連携して市町村の森林・林業行政等に対する技術支援に積極的に取り組む。

⑤ その他

国民の森林としての管理経営を推進する観点から、森林環境教育の推進、生物多様性の保全に係る取組（国指定天然記念物ゴイシツバメシジミ保護に係る取組及び関係機関と連携した鳥獣被害対策の実施等）の推進、安全・安心の取組に係る情報提供等に努める。

（４）主要事業の実施に関する事項

本計画及び前計画期間における伐採、更新、保育及び林道の事業総量は以下のとおりである。

事業の実施に当たっては、効果的かつ効率的な実施に努め、国土の保全、自然環境の保全、生物多様性の保全等に十分配慮しつつ、森林吸収源対策として間伐に積極的かつ着実に取り組むとともに、針広混交林化、複層林化、長伐期化や里山の整備等、地域の現況を踏まえ、資源の循環利用を行いながら多様で健全な森林の整備・保全を推進する。なお、森林資源の成熟に伴い主伐が増加していく中で、その実施に際しては、自然条件や社会的条件を考慮して実施箇所を選定するとともに、造林コストや花粉の少ない森林への転換、鳥獣被害等に配慮しつつ、公益的機能の持続的な発揮と森林資源の循環利用の観点から確実な更新を図る。

更新・保育については、伐採事業との一体的な実施や新たな林業技術の導入等による造林・育林作業の低コスト化に取り組む。

林道等の路網については、林産物の搬出、森林の育成のみでなく、森林の適切な保全管理等を効率的に行うために必要であり、森林の公益的機能が高度に発揮されるよう計

画的に整備する。その際、特に自然・社会的条件の良い森林において重点的な整備を推進する。

また、労働災害がなく、健康で明るく働けるように労働安全衛生の確保に努めるとともに、計画的な事業の発注等により林業事業体の育成・整備を図る。

① 伐採総量

(単位：m³、ha)

区 分	主伐	間伐	臨時伐採量	計
本 計 画	352,634	736,462 (5,895)	60,904	1,150,000
前 計 画	352,932	41,094 (6,856)	56,274	1,150,300

注：() は、間伐面積である。

② 更新総量

(単位：ha)

区 分	人工造林	天然更新	計
本 計 画	695	3	699
前 計 画	639	26	665

注：四捨五入の関係で計は一致しない。

③ 保育総量

(単位：ha)

区 分	下刈	つる切	除伐	ぼう芽整理
本 計 画	2,214	298	291	—
前 計 画	1,879	236	117	7

④ 林道の開設及び改良の総量

区 分	開 設		改 良	
	路線数	延長(m)	箇所数	延長(m)
数 量	15	29,500	232	42,300

(5) その他必要な事項

該当なし。

2 国有林野の維持及び保存に関する事項

(1) 巡視に関する事項

① 山火事防止等の森林保全巡視

本計画区には、九州中央山地国定公園、五木・五家荘、奥球磨、芦北海岸県立自然公園等があり、森林レクリエーションを目的とした森林への入林者が多く、特に、春季は山菜採りのシーズンと乾燥期、季節風等が重なり、山火事発生危険が増大する。このため、地元住民及び地元市町村等と連携を密にして山火事防止のPR、啓発活動を行うとともに、森林保全巡視を強化し、山火事等の未然防止に万全を期する。

また、廃棄物の不法投棄については、地元市町村等関係機関、森林保全巡視員及びボランティア団体との連携の強化を図り防止に努める。

② 境界の保全管理

境界標の巡検及び境界巡視を確実にを行い、境界の保全管理に努める。

③ 水上地区には、国内希少野生動植物種のゴイシツバメシジミが生息していることから、その生息環境の維持・保全を図るための巡視を積極的に行う。

(2) 森林病虫害の駆除又はそのまん延の防止に関する事項

森林病虫害による被害の早期発見及び早期駆除を図るために、適切な森林の巡視に努める。

(3) 特に保護を図るべき森林に関する事項

貴重な自然環境を有する天然林等が多数存在しており、これらの森林については、生物多様性の保全を図るうえで重要であり、保護林として設定し適切に保護・保全を図っていくとともに、巡視活動やモニタリング調査を通じた適切な保全・管理を推進する。

(4) その他必要な事項

本計画区の国有林野の大半が水源かん養保安林に指定されているなど、水源涵養^{かん}の上で重要な森林が多く存在することから、保安林等の適切な管理に努める。

深刻化しているニホンジカなどの野生鳥獣による森林被害については、その防止に向け、鳥獣保護管理施策や農業被害対策等との連携を図りつつ、被害状況の把握に努め、その結果を踏まえて、防護柵の設置等の防除活動や、地元行政機関、狩猟者団体、森林組合、森林所有者等との協力による計画的な捕獲等を総合的かつ効果的に推進する。

また、自然災害等により劣化した森林の再生・復元に努めるとともに、ボランティア団体等と協働・連携し、荒廃した植生の回復措置を行うなど、森林生態系の保全等のための取組について、環境行政との綿密な連携を確保しつつ推進する。

尾根筋や溪流沿い等の森林については、保護樹帯等として保全することを通じて、生物多様性の保全に努める。

3 林産物の供給に関する事項

(1) 木材の安定的な取引関係の確立に関する事項

国有林材の計画的・安定的な供給を通じて、地域における安定供給体制の整備や木材の新

たな需要の拡大、原木の加工・流通の合理化等に資するため、需要先と事前に協定を締結し、その協定に基づき計画的に丸太を供給する安定供給システム販売に取り組む。

また、国有林の区域において、公益的機能を確保しつつ、一定期間・安定的に樹木を採取できる権利を設定する「樹木採取権制度」を通じて、事業者間における木材の安定的な取引関係を確立する体制の構築を促進する。

さらに、民有林・国有林が連携しつつ合理的な販売・流通体制の確立を目指し、国産材の需要・販路の拡大に努める。

名称	所在地（林小班）	面積（ha）	備考
九州1球磨川 樹木採取区	8へ林小班外45林小 班	190.03	
合計		190.03	

（2）その他必要な事項

林産物の供給に当たっては、効果的かつ効率的な取組を推進することとし、列状間伐や路網と高性能林業機械を組み合わせた高効率・低コストな作業システムによる木材生産やニーズに応じた安定供給に努める。

また、庁舎等の整備、森林土木工事等の公共工事において木材利用の促進に取り組む。

4 国有林野の活用に関する事項

（1）国有林野の活用の推進方針

国有林野の活用にあたっては、地域の社会的・経済的状況、住民の意向等を考慮し、地域における産業の振興、住民の福祉の向上等に資するよう、国有林野の管理経営との調整を図りつつ、積極的に推進する。

本計画区の東部及び南部に位置する五家荘地区、人吉南部地区及び人吉北部地区は、温泉、溪谷及び豊かな自然景観等豊富な観光資源に恵まれており、観光、ハイキング、登山及び溪流釣り等森林を利用したレクリエーション・保健休養の場として多くの人々に利用されている。また、人吉及び球磨地域は古くから林業の先進地として有名で、林業・林産業は地域にとって重要な位置づけとなっており、農林水産業の振興に資する国有林野の活用を積極的に推進する。さらに、日本三大急流の川下りで有名な球磨川の上流域は、地域住民の水がめとして重要な役割を果たしており、地域住民参加による水源林造成を推進する。

一方、八代地区及び水俣地区周辺は、道路、緑地公園及び送電線用地等の公用・公共用地としての活用要望も高く、これらの要請については森林施業との調整を図りつつ対応する。

（2）国有林野の活用の具体的手法

国有林野の活用にあたっては、水源の涵養、自然環境の保全等の森林の持つ公益的機能との調和を図るとともに、土地利用に関する計画等との必要な調整を行った上で、道路等の公用・公共用地等については貸付又は売払い等により対応する。また、水源林造成等については分収林制度を積極的に活用する。

- (3) その他必要な事項
該当なし。

5 公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項

(1) 公益的機能維持増進協定の締結に関する基本的な事項

国有林野に隣接・介在する民有林野の中には、小規模で孤立分散し立地条件が不利であること等から森林所有者等による施業が行われず、当該民有林野における土砂の流出等の発生が国有林野の発揮する国土保全等の機能に悪影響を及ぼすなど、国有林野の公益的機能の維持増進への支障となることが懸念される場合がある。

このような場合、国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るために有効かつ適切なものとして、森林施業の集約化を図るための林道や森林作業道の開設とこれらの路網を活用した施業等を民有林野と一体的に行い、民有林野の有する公益的機能の維持増進にも寄与するよう、公益的機能維持増進協定制度の活用を努める。

(2) 国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項

公益的機能維持増進協定の締結に当たっては、民有林野の森林所有者等にも原則として相応の費用負担を求めるなど、合理的な役割分担の下での一体的な森林の整備及び保全の実施に向けた条件整備を進める。

6 国民の参加による森林の整備に関する事項

(1) 国民参加の森林に関する事項

ボランティア団体等との協定に基づく「多様な活動の森」等により、国民の自主的な参加による森林整備活動等を推進する。

名 称	面 積 (ha)	位 置 (林小班)
多様な活動の森	6.40	2001 ロ、2002 ホ、3015 ハ、 3049 ロ～ニ、3050 イ

(2) 分収林に関する事項

森林に対する国民の要請が多様化する中で、社会貢献活動として森林づくりに自ら参加・協力したいという企業等の要請に応えるため、分収林制度の活用による森林整備を推進する。

(3) その他必要な事項

豊かな自然環境を有する国有林野を多様な体験活動の場として積極的に提供し、森林環境教育の推進に努める。

また、教職員やボランティアのリーダー等に対する普及啓発や技術指導、森林環境教育のプログラムや教材の提供等を積極的に推進する。

さらに、森林管理署等は、国民参加による森林の整備・保全等に関する情報の提供、国民からの相談への対応、国民参加の支援を行う拠点としての機能の発揮を行うよう努める。

7 その他国有林野の管理経営に関し必要な事項

(1) 林業技術の開発、指導及び普及に関する事項

研究機関等が行う林業技術の開発及び林業機械の導入試験等に対しては、フィールド提供を積極的に行う。

(2) 地域の振興に関する事項

機能類型に応じた適切な管理経営を行い、山地災害の防止、水源の涵養、自然環境の保全、保健・文化・教育的利用、木材の安定供給等を通じて地域振興に寄与するよう努める。

また、その際には次の点に留意する。

- ① 分収造林及び国有林野の利活用の要請に対しては積極的に対応する。
- ② 林道については、地域の実態を踏まえ、生活道路としての機能の発揮に十分留意する。
- ③ 蜂蜜の採取源となる樹種については、事業実行との調整を図りつつ、その保全に努める。

(3) その他必要な事項

認証森林として適切な管理経営を推進するとともに、持続可能な森林経営により、生物多様性の保全、国土の保全、地球温暖化の防止及び木材の安定供給等が図られるよう、民有林と一体となって森林認証・ラベリングについての情報の提供等、持続可能な森林経営の普及及び定着に向けた取組を推進する。

(案)

第6次国有林野施業実施計画書

(球磨川森林計画区)

計画期間

自 令和5年4月1日
至 令和10年3月31日

九州森林管理局

目 次

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域	1
2 施業群の名称及び区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの 伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量	1
(1) 伐採造林計画簿	1
(2) 水源涵養タイプにおける施業群別面積等	1
(3) 水源涵養タイプの施業群別の上限伐採面積	2
(4) 伐採総量	3
(5) 更新総量	5
(6) 保育総量	5
3 林道の整備に関する事項	6
4 治山に関する事項	9
5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域	10
(1) 保護林の名称及び区域	10
(2) 緑の回廊の名称及び区域	12
6 樹木採取区の名称、所在地及び面積	12
7 レクリエーションの森の名称及び区域	12
8 公益的機能維持増進協定の名称及び区域	12
9 その他必要な事項	13
(1) 施業指標林、試験地等	13
(2) フィールドの提供	15
(3) 森林共同施業団地	15
(4) その他	15

- 1 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域
 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域の配置については、国有林野施業実施計画図による。
- 2 施業群の名称及び区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量
 - (1) 伐採造林計画簿
 伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、伐採造林計画簿に示すとおりである。
 - (2) 水源涵養^{かん}タイプにおける施業群別面積等

(単位：ha)

施 業 群		面 積	取 扱 い の 内 容	伐 期 齢 等
施 業 群	スギ・ヒノキ普通伐期	2,654.10	伐採箇所の縮小、分散化による皆伐新植を行う	スギ 50 ヒノキ55
	スギ長伐期	4,489.25	伐採箇所の縮小、分散化、長期化による皆伐新植を行う	70
	ヒノキ長伐期	8,524.69	伐採箇所の縮小、分散化、長期化による皆伐新植を行う	80
	アカマツ長伐期	195.83	伐採箇所の縮小、分散化、長期化による皆伐新植を行う	80
	ケヤキ長伐期	78.48	伐採箇所の縮小、分散化、長期化による皆伐新植を行う	150
	その他人工林	135.13	伐採箇所の縮小、分散化による皆伐新植を行う	60
	保護樹帯	1,997.78	被害木等について択伐を行う	60
	スギ・ヒノキ複層林	1,012.38	伐採箇所の縮小、分散化による複層伐を行う	スギ 80 ヒノキ85
	天然林長伐期	586.99	伐採箇所の縮小、分散化、長期化による択伐及び皆伐を行う	100
	天然林広葉樹	2,887.27	伐採箇所の縮小、分散化による択伐及び皆伐を行う	35
	しいたけ原木	459.04	皆伐1回目以降は、ぼう芽更新を行う	20
	合 計	23,020.94		

(3) 水源涵養^{かん}タイプの施業群別の上限伐採面積

(単位：ha)

施業群	上限伐採面積	備考
通常伐期施業	283	スギ・ヒノキ普通伐期
		しいたけ原木
長伐期施業	949	スギ長伐期
		ヒノキ長伐期
		アカマツ長伐期
		ケヤキ長伐期
複層林施業	126	スギ・ヒノキ複層林
天然林・その他施業	801	その他人工林
		保護樹帯
		天然林長伐期
		天然林広葉樹

(4) 伐採総量

(単位：m³、ha)

区 分	林 地					林地以外	合 計	
	主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐 採 量	計			
山地災害防止タイプ	18,391	178,358 (1,381)	196,749					
自然維持タイプ	—	—	—					
森林空間利用タイプ	—	4,672 (33)	4,672					
快適環境形成タイプ	—	71 (1)	71					
水源涵養タイプ	スギ・ヒノキ普通伐期	273,784	14,895					288,679
	スギ長伐期	23,273	176,028					199,301
	ヒノキ長伐期	1,414	352,633					354,047
	アカマツ長伐期	—	442					442
	スギ・ヒノキ複層林	35,772	9,363					45,135
	計	334,243	553,361 (4,482)					887,604
合 計	352,634	736,462 (5,896)	1,089,096	60,904	1,150,000	—	1,150,000	
年 平 均	70,527	147,292 (1,179)	217,819	12,181	230,000	—	230,000	

注1 () は間伐面積である。

注2 四捨五入の関係で計と内訳の合計が一致しないことがある。

(再掲) 市町村別内訳

(単位：m³)

市 町 村 名	林 地				林地以外	合 計
	主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐 採 量		
八 代 市	81,633	166,363	247,996			
人 吉 市	112,378	98,428	210,806			
水 俣 市	26,489	40,315	66,804			
氷 川 町	—	2,682	2,682			
芦 北 町	49,879	54,231	104,110			
錦 町	—	63,385	63,385			
多 良 木 町	17,458	40,912	58,370			
湯 前 町	16,691	107,326	124,017			
あ さ ぎ り 町	15,872	21,395	37,267			
水 上 村	221	25,628	25,849			
相 良 村	8,231	10,670	18,901			
五 木 村	13,707	33,859	47,566			
山 江 村	1,850	38,820	40,670			
球 磨 村	8,225	32,448	40,673			

注 臨時伐採量及び林地以外の土地に係る伐採量は含まない。

(5) 更新総量

(単位：ha)

区 分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源涵養 タイプ	合 計
人工 造林	単層林成	22.61	—	—	—	597.56	620.17
	複層林成	9.44	—	—	—	65.69	75.13
	計	32.05	—	—	—	663.25	695.30
天然 更新	天然下種 第1類	—	—	—	—	—	—
	天然下種 第2類	—	—	—	—	0.56	0.56
	ぼう芽	—	—	—	—	2.85	2.85
	計	—	—	—	—	3.41	3.41
合 計		32.05	—	—	—	666.66	698.71

(6) 保育総量

(単位：ha)

区 分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源涵養 タイプ	合 計
保 育	下 刈	54.60	—	—	—	2,159.88	2,214.48
	つ る 切	—	—	—	—	298.36	298.36
	除 伐	—	—	—	—	290.50	290.50
	ぼう芽整理	—	—	—	—	—	—
	計	54.60	—	—	—	2,748.74	2,803.34

3 林道の整備に関する事項

基幹・その他別	開設・改良	路線名	箇所（林班）	延長（m）	備考
その他	開設	久連子1143林道	1143～1145	6,300	
		山川内1041林道	1041	1,600	
		上岩1033林道	1033	800	
		松求麻1028林道	1028、1030	1,000	
		折渡中村1027林道	1027、1028	1,300	
		深水1029林道	1027～1029	2,000	
		梶原66林道	67	2,400	
		四ツ谷56林道	53、56	1,300	
		出水大川内44林道	39～44	2,300	
		白髪2003林道	2003	1,900	
		柳野林道（東光寺側）	2040	200	
		松ヶ平2038林道	2038	600	
		鍵掛2032林道	2032	2,000	
		椎葉2063林道	2061～2063	3,000	
		平瀬2082林道	2082	2,800	
基幹	改良	樅木林道	1112、1113	500	舗装
		川口樅木林道	1125	2,100	擁壁外
		折渡林道	1022	900	舗装外
		横谷林道	1016	2,000	舗装外
		大通越林道	1018、1019	1,700	法面外
		上岩林道	1039	500	擁壁外
		子別峠林道	1008、1011	1,100	舗装
		深水林道	1030	300	舗装
		市ノ俣林道	1043	400	擁壁
		梶原林道	60	400	法面外
		段塔林道	66	1,000	舗装外
		荒川内林道	39	500	舗装
		白浜林道	8、22	1,700	舗装
		鹿目林道	16、17	1,000	舗装
		永葉林道	19、20	3,000	舗装

基幹・ その他別	開設・ 改良	路 線 名	箇所（林班）	延 長 （ m ）	備 考
基 幹	改良	矢岳林道	50	300	舗装
		矢岳林道35支線	35	400	舗装
		鹿目林道（丸岩側）	9	1,000	舗装
		西浦林道	100	300	舗装
		小川内林道	55	200	擁壁
		市木林道	1416、1417	800	舗装
		日の口林道	1418、1419	600	舗装
		大川林道	1422	200	擁壁外
		米田山林道	1437、1441	2,000	舗装
		鏡山林道	1457	600	舗装外
		国見林道	1430、1433	200	舗装
		丸塚林道	81、82	200	舗装
		大平林道	82	700	舗装外
		段塔林道（大鶴側）	77	200	擁壁
		アクソー林道	2014、2016	1,000	擁壁外
		柳野林道	2042	1,500	舗装外
		飯盛林道	2008	400	舗装
		久米川内林道	2008	600	擁壁外
		湯前林道	2018	400	舗装
		七ツ山横谷林道	2022、2023	500	舗装外
		仁原林道	2009	100	擁壁
		鍵掛林道	2033	200	擁壁外
		椎葉林道	2061、2062	500	擁壁外
		晴山林道	2057	100	擁壁外
		宇那川林道	86	700	法面外
		宇那川林道84支線	84	400	舗装
白浜林道（布計側）	1	500	舗装外		
猪の子伏林道	3049	1,500	舗装		
白髪岳林道	3015	500	舗装外		
その他	改良	横谷林道15支線	1015	200	擁壁外
		上岩林道33支線	1034	200	擁壁外
		菖蒲谷林道	1003、1004	300	擁壁外
		深水林道31支線	1031	200	舗装

基幹・その他別	開設・改良	路線名	箇所（林班）	延長（m）	備考
その他	改良	油谷林道	1049	200	法面外
		上宮林道	1053	300	舗装
		折渡林道21支線	1022	600	擁壁外
		市ノ俣林道45支線	1045	200	擁壁
		夏切林道	1014	200	舗装外
		中村林道2080	1022	100	擁壁
		子別峠林道1011支線	1010	200	舗装外
		松求麻1028林道	1028	200	法面外
		段塔林道66支線	65、66	300	擁壁外
		鹿目林道田野支線	13	100	舗装外
		狐岩林道	1429	400	舗装
		上山1421林道	1421	100	法面外
		松生林道	1444、1450	500	舗装
		米田山1442林道	1441	100	擁壁外
		松生林道1444支線	1444	500	舗装
		庵ノ山林道1447支線	1447	100	舗装
		丸塚林道82支線	82	100	擁壁外
		段塔林道77支線	77	100	擁壁
		赤木林道	2041	100	擁壁
		アクソー林道花立支線	2009	200	擁壁
		柳野林道（東光寺側）	2040	200	擁壁
		牧良林道	2024	400	舗装
		焼尾林道	2025	400	舗装外
		湯前林道18支線	2011	100	擁壁
		松ヶ平2038林道	2038	100	法面外
		平ノ下林道	2059	300	擁壁外
		一の俣林道	2069	100	擁壁
		内谷林道	2081	100	擁壁
辰ノ元林道	93	400	舗装外		
白岩林道	91	300	擁壁外		
白髪岳林道14支線	3014、3015	400	擁壁外		
岡本林道	2004	300	舗装		
計	開設			29,500	15路線
	改良			42,300	232箇所

4 治山に関する事項

位 置 (林 班)	区 分	工 種	計 画 量 (箇所数又は面積)
19、20、55、65、66、77、78、80、 82、83～86、91、1008、1010、 1022、1023、1028、1030、1033～ 1037、1039、1040、1042、1044、 1045、1106、1112～1114、1116、 1118、1122、1138、1139、1146、 1409、1419、1421、1422、1452～ 1455、1458、1462、2001、2002、 2008、2009、2010、2011、2014、 2017～2023、2025、2029、2040、 2041、2043、2057、2060、2061、 2063、3014、3045	保 全 施 設	溪 間 工	86箇所
7、9、13、17、19～21、55、60、66 ～68、71、72、74～78、80、82～ 87、90、91、93、94、98、100、 1003、1008、1015、1016、1022、 1028、1030、1031、1033、1035～ 1040、1042～1045、1060、1061、 1064、1113、1114、1116、1117、 1123、1141～1143、1145、1146、 1407、1436、1455、1460、2002、 2005、2006、2009～2011、2014～ 2019、2021～2023、2025、2040、 2041、2057、2059～2062、2064、 2069～2071、2085、3014、3015、 3046、3050	保 全 施 設	山 腹 工	166箇所
2～11、32、34～36、39、43、44、 50、52、57、60、70、73～75、77、 79、82、91、93、94、1003、1004、 1007、1011、1013、1018～1022、 1024、1026、1027、1030、1031、 1033、1035、1039～1046、1048、 1054、1060、1102、1103、1112、 1113、1118、1406、1410、1411、 1416、1417、1419、1430、1434、 1435、1437、1440、1443、1444、 1447、1451、1453、1456、1460、 1461、1468、1470、2002、2004、 2006、2008～2011、2017、2018、 2022、2023、2031、2041～2043、 2066、2068、2069、2074、2078、 2079	保安林の整備	本 数 調 整 伐	978ha
計	保安林の整備		978ha
	保 全 施 設		252箇所

5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

(1) 保護林の名称及び区域

区分	名 称	面積	位置 (林小班)	特 徴 等	新設・ 既設
生物群集保護林	九州中央山地	2,234.94	1101り、1102ぬ、1105い、ろ、1106い、1110い～は、1111い～ろ、1112い、1113い、1114い、ろ、1115い～ろ2、1116い～ほ、1117い～ろ1、1118ほ、1119へ、と、1120い、ろ、る、1121い～ほ、ら、1122い、1123い、1124い、1125へ、と～り、イ、1126い、1127い、ろ、1130い、1131い、1132い、1133い、に、1134い、1135い～に、1136い、ろ、1137い、ろ、1138ぬ、る、1139い、1141と、1142ぬ、1143ち～ち2、1144ぬ、2031と、2032わ、2034い	太平洋型ブナ林がまとまって分布し、一部に湿性タイプのブナ林も見られる。また、希少な野生生物が生育・生息するほか、石灰岩地では他にみられない特異な植物がみられるなど生物多様性が高い。これら地域固有の生物群集の保護・管理のため設定。	既設
	白髪岳	379.16	2001ほ3、ロ、2002に1、ほ、へ1、と1、ち6、ホ、3014ち～ぬ、3015あ、さ、ハ、3049た、れ、ハ、ニ、3050か～よ、イ	モミ、ツガ、広葉樹の高齢級天然林や上部に広がる我が国の南限に近いブナ林が生育するほか、草本類、昆虫類にも貴重なものが多い。これらの地域固有の生物群集の保護・管理のため設定。	既設
計	2箇所	2,614.10			

区分	名 称	面積	位置 (林小班)	特 徴 等	新設・ 既設
希少個体群保護林	大河平モミ等 遺伝資源	8.49	30い	ウラジロカシ、タブノキ、イスノキ等の広葉樹とモミ、ツガ等針葉樹が混交して生育。これらの希少化した個体群の保護・管理のほか、モミ、ウラジロカシ、ミズメ、タブノキ、イスノキ、ツブラジイ樹種のの遺伝資源の保存のため設定。	既設
	久木野アカガシ等 遺伝資源	26.71	1420ろ	シイノキ類を主体に、アカガシ、ウラジロカシ、イチイガシ等がまとまって生育。これらの希少化した個体群の保護・管理のほか、アカガシ、ウラジロカシ、ツブラジイ、イチイガシ、タブノキ樹種の遺伝資源の保存のため設定。	既設

区分	名 称	面積	位置 (林小班)	特 徴 等	新設・ 既設
希少 個体群 保護林	市房ツガ等遺 伝資源	31.20	2029と	モミ、ツガ、ヒメコマツ、サワグルミーハイノキ、ミヤマシキミースズタケ、コケなどの群落が生育。これらの希少化した個体群の保護・管理のほか、ツガ、ヒメコマツ、サワグルミ、ケヤキ樹種の遺伝資源の保存のため設定。	既設
	市房ゴイシツ バメシジミ	45.27	2029ほ、へ、と1、ち、ら	指定国内希少野生動物種ゴイシツバメシジミが生息し、その食草のシンランが林分構造の発達した森林内大径木に着生。このような希少化している個体群の保護・管理のため設定。	既設
	釈迦院スギ	8.61	1001に～と、1002ろ、に、ほ、ち、り	釈迦院スギと呼ばれる老齢・長大径の人工林が生育。これらの希少化した個体群の保護・管理のため設定。	既設
	崩川内モミ等	135.90	2035い、ろ	モミ、ツガ、カシ、ブナ等の針広混交林が生育。これらの希少化した個体群の保護・管理のため設定。	既設
計	7箇所	256.18			
合計	9箇所	2,870.28			

(2) 緑の回廊の名称及び区域

名 称	延長 (km)	面積 (ha)	位置 (林小班)	特 徴 等	備 考
該当なし					
合 計					

6 樹木採取区の名称、所在地及び面積

名 称	所 在 地 (林 小 班)	面 積 (ha)	備 考
九州1球磨川樹木採取区	8へ林小班外45林小班	190.03	
合 計		190.03	

7 レクリエーションの森の名称及び区域

種類	名称	面積 (ha)	位 置 (林 小 班)	選定理由	施業方法	既 存 施 設 の 概 要	施設整備	新設・既設
該当なし								
合計								

8 公益的機能維持増進協定の名称及び区域

名 称	区 域 (林 小 班)	面 積 (ha)	森 林 施 業 の 種 類	林 道 の 開 設 等	設 定 年 及 び 有 効 期 限	備 考
該当なし	民					
	国					
合 計	民					
	国					

9 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

種 類	名 称	設定 年度	面積 (ha)	位 置 (林 小 班)	備 考
試 験 地	丸山収穫試験地	S6	1.02	1443ほ	ヒノキ
	端海野収穫試験地	S25	3.27	2078ろ	ヒノキ
	マツ現地適応試験地 (マツ水俣署第3号 試験地)	H2	0.63	1405へ	アカマツ、クロマツ
	マツ現地適応試験地 (マツ水俣署第3- 1号試験地)	H3	0.73	1405へ1	アカマツ、クロマツ
	茂道松の現地適応試 験	H7	0.29	1402ろ2	茂道松
	広葉樹試験地	H8	0.32	1434り3	ケヤキ、タブノキ
	ハゼノキの試植検 定林	H11	0.70	1408ち1	ハゼノキ
	ヒノキ挿し木クロー ンの実証林	H14	0.61	32ほ2	ヒノキ
	スギ下刈省力化品種 選抜1号	H17	0.43	39り5	スギ
	酸性雨等森林衰退モ ニタリング試験地	H20	59.15	1122い	ブナ、モミ
	スギ中苗を用いた低 コストモデル実証の 団地設定	H28	10.58	21ろ1～ろ12	スギ、ヒノキ、コウヨウサシ、センダ シ、ケンボナシ、チャンチンモトギ、ハ ナカガシ、他広
中苗植栽造林コスト 省力化試験地	R2	2.43	53ろ	スギ	
次代検 定林	一般次代検 定林 (九熊本第7号)	S45	1.50	2021ほ	スギ
	一般次代検 定林 (九熊本第17号)	S46	1.50	1012ら	スギ
	一般次代検 定林 (九熊本第25号)	S47	1.60	52わ	スギ
	一般次代検 定林 (九熊本第82号)	S57	1.50	1433に	ヒノキ
	一般次代検 定林 (九熊本第96号)	S61	1.50	2057ね8	ヒノキ
	一般次代検 定林 (九熊本第111号)	H2	1.00	8い5	ヒノキ
	遺 伝 試 験 林 (九熊本第32号)	S48	1.38	1467ほ	ヒノキ
	遺 伝 試 験 林 (スギ人吉署第1号)	S50	1.30	6ぬ	スギ

種 類	名 称	設定 年度	面積 (ha)	位 置 (林 小 班)	備 考
次代検定林	遺伝試験林 (ｽｷﾞ八代署第1号)	S51	1.50	1036う	ｽｷﾞ
	遺伝試験林 (九熊本第164号)	H28	0.34	21ろ12	ｽｷﾞ
	育種集団林 (九熊本第121号)	S63	1.27	1045か6	ｽｷﾞ、ヒノキ
	育種集団林 (九熊本第118号)	H4	0.30	1426わ6	ヒノキ
	育種集団林 (九熊本第139号)	H11	0.58	2059し2	ｽｷﾞ
	育種集団林 (九熊本第148号)	H16	0.37	1017ぬ2	ｽｷﾞ
	育種集団林 (九熊本第157号)	H20	0.63	1450は1	ヒノキ
	育種集団林 (九熊本第160号)	H22	0.36	45と1	ｽｷﾞ
	育種集団林 (九熊本第161号)	H22	0.25	45と1	ヒノキ
	育種集団林 (九熊本第163号)	H28	0.42	21ろ11	ｽｷﾞ
	試験検定林 (ｽｷﾞ多良木署第1号)	S54	1.12	2018う、の	ｽｷﾞ
	試験検定林 (九熊本第174号-1)	H30	0.18	21ろ9	コウヨウザン
	試験検定林 (九熊本第174号-2)	H30	0.09	21ろ9	ｽｷﾞ、コウヨウザン
遺伝子保存林	八代署キシマアカマツ	S36	2.50	1021は1	アカマツ
	八代署ヒノキ	S39	1.20	1030ぬ	ヒノキ
	八代署ヒノキ	S41	2.25	1030ろ1	ヒノキ
	多良木署ｽｷﾞ	S41	1.09	2004よ1	ｽｷﾞ
	水俣署クロマツ	S42	2.00	1441と1	クロマツ
施業指標林	複層林施業指標林	S53	0.50	1422と1	ｽｷﾞ
	間伐施業指標林	S61	3.17	2055に	ヒノキ
	天然林施業指標林	S62	2.26	3015り	カシ類
	天然林施業指標林	S63	1.51	75り8	シラカシ
	天然林施業指標林	S63	3.21	1456ぬ	シラカシ
	上層間伐指標林	S63	20.00	2040ぬ2	ｽｷﾞ、ヒノキ
	間伐施業指標林	H1	2.93	1012む	ヒノキ
	天然林施業指標林	H1	4.44	1107い2、い3	他広
展示林	品種別展示林	S43	2.20	2029に	ｽｷﾞ
	品種別展示林	S44	2.00	1017り1	ｽｷﾞ
	大関ヒノキ	S50	0.22	1434る	ヒノキ
森林施業モデル林	間国有林国土保全モデル林	H12	4.20	35と	ケヤキ

(2) フィールドの提供

対象地（林小班）	設 定 の 目 的	備 考
2001ロ、2002ホ、 3015ハ、3049ロ～ ニ、3050イ	多様な活動の森	白髪岳を守る山の会 白髪岳を守る山の会活動の森 平成26年1月8日協定

(3) 森林共同施業団地

名 称	対 象 地 (林 小 班)	面 積 (ha)	協 定 の 概 要
五木地域森林整備推進協定	民	5,391	間伐の実施 間伐材の販売 路網の整備
	国	14,792	
合 計	民	5,391	
	国	14,792	

(4) その他

レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業方法

位 置 (林 小 班)	面積 (ha)	施 業 方 法
56ろ、ほ、と、り、る、た～そ、 59い、ろ	47.16	育成複層林へ導くための施業
56ち、1402い～ろ1、ろ3～ろ6、は、 い、ろ	1461 53.79	天然生林へ導くための施業
1402イ～ト	10.14	林地以外の土地
計	111.09	

注 ふれあいの森その他森林空間利用タイプに設定している施業指標林、試験地等を除く。